

2/6 芸術を通じて協力 茨城アートライン協定



筑西市、境町、笠間市、大洗町、ザ・ヒロサワ・シティは、芸術文化を核に地域振興を図る茨城アートライン協定を締結しました。今後、各地の美術館や博物館での共同企画展の開催、周遊ツアーの実施が期待されます。

2/29 地域社会の活性化 SDGs 推進に係る包括連携協定



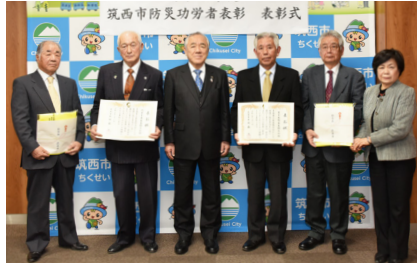
市と関彰商事株式会社（関正樹社長）は、持続可能なまちづくりを実現するため、包括連携協定を締結しました。「誰一人取り残さない」というSDGsの基本理念に則り、地域社会の活性化及び市民サービスの更なる向上を図ります。

1/14・24 一刻も早い復興のために 市職員・DMAT を派遣

令和6年能登半島地震被災地支援業務の協力要請を受け、1/14～3/17までの間に計11人の市職員を交代で石川県に派遣しました。市職員は、現地で給水活動業務、避難所運営業務、住家被害認定調査業務、被災者の健康支援業務などにあたりました。また茨城県西部メディカルセンターにおいても1/24～27の間にDMAT（災害派遣医療チーム）として医師1人、看護師2人、業務調整員2人を現地（珠洲市）に派遣し、病院支援を行いました。



2/1 防災力向上に尽力 令和5年度防災功労者表彰



地域の防災対応力の向上と防災意識の高揚に貢献したとして、門井中央自主防災会（増淵俊夫会長）と富士見町自主防災会（星文保会長）を表彰しました。この表彰は、自主防災組織の醸成を図るために創設されたものです。

2/14 人権啓発活動に尽力 県市長会功労者表彰



県市町村会館で茨城県市長会自治功労者表彰式が行われ、池羽七郎さん（西方）が受賞しました。池羽さんは、長年に渡り、人権擁護委員として、人権思想の普及や人権啓発活動に積極的に活動されました。

1/28 グランテラス 500万人達成



道の駅グランテラス筑西が開業から4年半で来場者数500万人を達成しました。500万人目となったのは千葉県在住の石毛正輝さん家族で「子どもを遊ばせる場所があるところが気に入っています。また来たいです」と笑顔で話してくれました。

2/11 無事帰ってきてね 約1万匹の稚魚を放流



鬼怒小貝漁業協同組合（宮田芳男組合長）が鮭の稚魚放流会を鬼怒川で行いました。当日は、親子連れなど約400人が参加。鮭の生態について学んだ後「大きくなって無事に帰ってきてね」などの声かけとともに、約1万匹の稚魚を放流しました。

3/6 教育に役立てて 明野五葉学園に300万円を寄付



木村晋様（松原）から、明野五葉学園のより良い学校運営と、発展のために役立ててほしいと、300万円の寄付をいただきました。小室高志教育長は「より良い学校環境を整備するため大切にに使わせていただきます」と感謝を述べました。

3/9 女性起業家が語る ケニアの女性と子どもたち



アフリカ支援を目的に起業した加藤あつこさん（シクンジェム代表）がケニアの状況や起業の経緯について講演しました。当日は、アフリカ製の布で作られた服を着た市民モデルによるファッションショーも開催され、会場を盛り上げました。

3/5 わくわく美術展 写真部門で県知事賞を受賞



第28回茨城県健康福祉祭いばらきねんりん文化祭「わくわく美術展」の写真部門で高橋義泰さん（荒町）が県知事賞を受賞しました。作品は、昭和38年頃の家族の日常を収めた写真で、今後全国健康福祉祭に県代表として出展されます。

3/9 一年間の集大成 地域創生アイデア発表会



「第6回ちくせい若者まちづくり会議」がコミュニティプラザ（スピカビル6階）で開催されました。最終回となった今回は、学生たちが考案した地域創生に関するアイデア発表会が行われ、6つのグループが市長へアイデアを提案しました。

3/3 波山の夕べ 波山の窯や作風を時代ごとに紹介



市出身の陶芸家で、文化勲章受章者の板谷波山生誕の日に、下館・時の会（一本努会長）主催で「波山の夕べ」がアルテリオで開催されました。当日は「波山と窯」をテーマに、波山が使用してきた窯のうつりかわりや作品の特徴が紹介されました。

3/8 るるぶリニューアル 筑西の魅力を一冊に



観光情報誌「るるぶ特別編集ちくせい」が新しくなりました。筑西市が今オススメする「見る・食べる・遊ぶ」をギュッと詰め込んでいます。市役所や市内公共施設、道の駅グランテラス筑西などで配布していますので、ぜひご覧ください。

20周年記念ロゴマーク&ブランドロゴマークが決定！！



記念ロゴマーク



ブランドロゴマーク

令和6年度に、筑西市が誕生して20周年を迎えます。この度、20周年を盛り上げるための記念ロゴマークと、シビックプライドの醸成を図るための市ブランドロゴマークを、市民や首都圏在住で市出身のみなさんの投票により決定しました。

このロゴは市が実施する事業だけでなく、市民のみなさんや事業者の人にも、幅広く活用してもらえるようにしていきます。利用規約などの詳細は、決定次第、広報紙、市公式SNSなどでお知らせします。